◆　東京都主税局長賞　◆

「歴史的背景から税のあり方を考える」

江東区立第二砂町中学校３年　　坂本　真友香

私が住んでいる地域では、令和三年四月から、区立小中学校、義務教育学校の全ての児童や生徒の一人一人に情報端末が貸与されました。また、今年から高校生の医療費が無償化もされました。それに加え、今年の十月から、区立小中学校で給食費が無償になります。

これらは、全て税金によってまかなわれています。この税金で、私達の暮らしはより豊かになっていくといえると思います。税金は、昔から現在のように生活をより快適に過ごすために使われてきたのでしょうか。そもそも、税金はどのように使われることが望ましいのでしょうか。

古代から近代までの歴史の流れを見ていくと、税の使われ方は、現在と異なっている時代があると感じました。

奈良時代、律令制のもとでの暮らしは、租、調、庸などの農民の税の負担が大きいです。納められた税は、皇族や貴族の豊かな暮らしを支えていました。自分で納めた税が、自分達の生活に反映されないということに、不平等さを感じました。鎌倉時代でも年貢の納入はほとんどを農民がうけ負っています。室町時代は関所や座が設けられたりし、それらもまた幕府や公家、寺社に銭などを納めています。江戸時代では、兵農分離により武士と百姓などの身分の上下が高まり、農民である百姓は五人組を組織させられ、より年貢の納入を強いられています。明治時代では、地租改正が実施されましたが、人々の負担は以前とあまり変わりませんでした。

このように、税についての歴史の流れを見ていくと、税は特定の一部の人のみの利益となっているように思えます。室町時代の商人達は、銭を納めることで商品の製造や販売を独占する権利を確保することができるといったメリットもありますが、納税をした全ての人の生活が豊かになったとはいえないと思いました。そのため、税金は、昔から現在のように生活をより快適に過ごすために使われてきたわけではないと思います。

私は、買い物をするときの消費税など、税金を納めたことはあります。また、働いている両親も税金を納めています。その納めた税金によって、道路が整備されたり、公立学校の教育施設が充実したりなどと、私達の暮らしはより豊かに発展していきました。なので、私達で納めた税金は、私達の生活に反映されて、より快適さを追求するために使われることが望ましいのではないかと考えました。それが税金を納める意義なのではないでしょうか。

これからは、私達が納めている税金がどのようなことに使われているかを考えながら、現代社会を生きる一員として、その税金の使われ方が本当に正しいのかどうかを判断できる大人になりたいです。